

⑨ ZIGZAG 抽出法の抽出誤差について

兼所員 増 山 元 三 郎

前に本誌上に、ある量 Y が大体大きさの順に並んでいる時は、系統抽出法を用いて抽出間隔 k で抽くと、母平均の推定量の母分散は、 k 箇に層別して各層から 1 ずつの無作為抽出した場合より大抵大きいから好ましくないので、系統的に並べるより ZIGZAG に並べる文法が良いことを指摘した。茲に $N = nk$ は母集団の大きさとする。ZIGZAG 抽出法では k が偶数になるように選ぶことが好ましいが、利用できるための必要条件ではない。

茲にはこの場合の母分散を標本から推定する方法を考えよう。

層	C_1	C_2	-----	C_k	平均
S_1	y_1	y_2	-----	y_k	m_1
S_2	y_{2k}	y_{2k-1}	-----	y_{k+1}	m_2
⋮			-----		⋮
S_m			-----		m_m
平均	\bar{y}_1	\bar{y}_2	-----	\bar{y}_k	m

以下 Cochran と異なる定義を用いよう。

$$\begin{aligned}
 k\sigma_y^2 &= \sum_{i=1}^k \bar{y}_i^2 - k m^2 \\
 &= \frac{1}{n^2} \sum_{i=1}^{nk} y_i^2 + \frac{2}{n^2} \left\{ \sum_{\alpha \neq \beta} y_\alpha y_\beta \right\} - k m^2
 \end{aligned}$$

$$= \frac{1}{n^2} \{ n k \sigma_y^2 + n k m^2 \} + \frac{2}{n^2} \{ \sum y_\alpha y_\beta \} - k m^2$$

$$\therefore \sigma_{ZAG}^2 \equiv \sigma_{\xi}^2 = \frac{\sigma_y^2}{n} + \left(\frac{1}{n} - 1 \right) m^2 + \frac{2}{k n^2} \{ \sum y_\alpha y_\beta \}$$

今共変量 $C_{\alpha\beta}$ を次式で導くと、

$$\sum y_\alpha y_\beta = C_{\alpha\beta} + k m \alpha m \beta$$

$$\sigma_{ZAG}^2 \equiv \frac{\sigma_y^2}{n} = \sigma_{\xi}^2 - \frac{2}{k m^2} \sum_{\alpha < \beta} C_{\alpha\beta} + \frac{\sigma_m^2}{n}$$

茲に σ_y^2 は Y の母分散、 σ_m^2 は m_1, m_2, \dots, m_m の母分散である。

この式から、ZIGZAG法が無作為法より

$$\sigma_m^2 > \frac{2}{k m} \sum_{\alpha < \beta} C_{\alpha\beta}$$

ならよいことがわかるし、更に

$$\sum_{\alpha < \beta} C_{\alpha\beta} < 0$$

なら、ZIGZAG法は層別法よりよいことが分る。

$C_{\alpha\beta}$ の符号は、ZIGZAG法に依れば、大体次のようになり、従つて $|\beta - \alpha|$ が奇数なら負、偶数なら正、又 $|\beta - \alpha|$ が大いなる

$\alpha \beta$	2	3	4	-----	n
1	-	+	-	-----	$(-1)^{n-1}$
2		-	+	-----	$(-1)^{n-2}$
3			-	-----	$(-1)^{n-3}$
⋮				-----	
$n-1$					-

ると $|C_{\alpha\beta}|$ は小になるよう母集団であれば大丈夫 $\sum_{\alpha < \beta} C_{\alpha\beta}$ は負になることが分る。

ところで 最初 (y_1, y_2, \dots, y_k) の中から一つ y を乱数表で
 抽いたとすると、

$$mV \equiv y^2 + y_{2k-v+1}^2 + \dots - n\sigma_v^2$$

と置いて

$$\begin{aligned} E(V) &= (S_y + nkm^2 - n\sum_{\alpha}^k \sigma_{\alpha}^2) / (mk) \\ &= \sigma_y^2 + m^2 - \sigma_{\xi}^2 - m^2 \\ &= \sigma_y^2 - \sigma_{\xi}^2 \\ &= (n-1)\sigma_{\xi}^2 + (\sigma_m^2 - \frac{2}{km} \sum_{\alpha \neq \beta} C_{\alpha\beta}) \end{aligned}$$

従つて

σ_{ξ}^2 の推定量として、 $V/(n-1)$ を採用すると、

$$b \equiv \sqrt{(\sigma_m^2 - \frac{2}{km} \sum_{\alpha \neq \beta} C_{\alpha\beta}) / (n-1)}$$

だけ大きい方に偏つていることが分る。従つて平均として大きく
 見積つて差支えないなら $V/(n-1)$ が利用できる。この時

$$\begin{aligned} (n-1)b^2 &= \sigma_m^2 - \frac{2}{km} \sum_{\alpha \neq \beta} C_{\alpha\beta} \\ &= n(\sigma_{ram}^2 - \sigma_{z.g.}^2) \end{aligned}$$

となつていことに注意、 b の推定法は別に考えたい。

- 1) W. G. Madow and L. H. Madow : *Ann. March. Stat.*, 15 (1944), 1

2) W. G. Cochran : Ann. Math. Stat., 17 (1946), 164.

3) W. G. Cochran : Sample survey techniques, 1948.

Chap. VI. p 66-76.